

様式第 2 号（政務活動実施報告書）

25 年 11 月 20 日

井原市議会議長

宮地 俊則 様

井原市議会議員 柳井一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成 25 年 11 月 12 日～11 月 13 日
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	1) 神奈川県小田原市 小田原市役所 観光課、小田原城 2) 京都府向日市 向日商店街
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	1) 北条家五代にまつわる観光事業について視察研修 2) 商店街活性化成功についての研修、商店街視察
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	1) 小田原市 観光課 武井課長、府川係長、三橋主事、 諏訪間城址公園担当課長 2) 京都激辛商店街 磯野事務長、斉藤氏
5. 活 動 内 容	1) 北条早雲生誕から五代の北条氏について関係各市町で大河 ドラマへの働きかけなどを行い観光事業につなげている実態 を小田原城拝観しながら学んだ。観光客数など詳細は別紙の通 り。 2) 商店街の活性化に対してどのように取り組んだのかを現場 を見ながら研修した。詳細は別紙資料の通り。

1. 報告書は、政務活動終了後 2 週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

小田原市での北条家五代にまつわる観光事業について

井原市を含む4市1町での北条早雲観光推進協議会が平成13年10月12日に発足、北条五代観光推進協議会は平成23年7月8日に名称変更で設立され、2か月後にさらに4市1町が加わり、その後、毎年1市ずつ加わり、現在9市2町のメンバーで構成される。

(井原市、沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、鎌倉市、小田原市、箱根町、八王子市、川越市、寄居町)

また、協議会の事業としては北条五代の認知度の向上、北条五代を利用しての誘客宣伝、観光事業の展開、当該市町の活性化を図ることが主である。

そして、観光施策の一環として、NHKへ大河ドラマ化に向けてアピールしているが、各都道府県がいろいろ要望していて現在は積極的なアプローチは逆効果との考えから小休止している。作家の伊東潤氏が『黎明に起つ』という早雲の一代記をNHK出版で上梓、本年10月に発売されたことからドラマ化を期待している状況である。

小田原市への年間の観光客数は437万人で内、城址公園、天守閣など北条家に関する観光客数は305万人を超え、当地市にとってはある有力な観光資源であり、今後の対策はいかに、当地へ宿泊させざるから？で研究途中とこのことであつた。観光地としては大都会東京から車で一時間程度の地理的な有利はあるが、宿泊先に関しては箱根、湯河原、伊豆、鎌倉などライバル市が近辺に多く小田原市にとっては必要な研究課題である。そのため行政と市民の協働で魅力ある観光地づくりを考えて、長い滞在時間の確保のために回遊性のある町づくりや施設の充実を図り、旅行雑誌などに積極的にプロモーション展開をし、また、近畿ツーリストと提携してモニターツアー（東京からの日帰り客に昼食、ガイド付き商品販売）などを実施、いろいろな選択肢を用意し、リピート客の確保ができるよう考えている。

本市に於いては、有力な観光資源が少なく高越城址など他の施設を更に充実させ観光客を呼べる町づくりが必要と思われる。（例えば、高越城は時期的に美星の中世夢が原のような砦だと思いが再現してはどうか）そして荏原から嫁入らず観音、天神峡、美星の中世夢が原、天文台などの井原市内回遊をプランニングするのも一考であり、官民一体で観光事業に取り組むことが大事と思う。

京都府向日市商店街活性化の成功について

平成21年7月に西日本一小さな市、向日市に『激辛商店街』が発足した。きっかけは8年前に商工会の青年部の有志が飲食店の激辛で町おこしをしようと立ち上げ、当時の商工会幹部に提案したが断られた為、周到な研究準備をして、H21年に青年部有志で賛同してくれる20店舗の飲食店からスタートし、現在は加盟店37店舗となった。クリーニング店、Tシャツ屋、花屋など他業種も参加している。

特徴は激辛でリピーターを狙い、マスコミを上手く使うことでTV、新聞はもちろん、インターネットのヤフーではトップメニューに掲載され5億ビューされるなどかなりの注目度であったとの事だった。TVでは4年間で70本の取材があり、現在はTV局から今年のイベントはどういったものですか？と問い合わせがあるほどになったそうである。そして、向日町競輪場で激辛グランプリをした第1回目は2万人の来場者で2回目は5万人におよび関係者は喜んでいる。周知方法は広報紙と前述のマスコミである。やはりマスコミの影響の大きさには向日商店街事務長も驚いていた。

本市に於いても商店街の活性化や井原市の知名度向上、ひいては観光事業により井原市への集客には飲食に限らず各種のイベントを行うことも大事であるが、その際のマスメディア利用は必要であろうし、井原放送からの紹介で地元ローカルTV局や全国局に働きかける事が大事であると思う。大分の豊後高田市など町おこしで成功している市町はマスコミ利用で共通していると思う。そのことからマスメディアは市民に広く周知できる最大の宣伝媒体であることから必要不可欠であると思う。

平成25年11月25日

井原市議会議長
宮 地 俊 則 様

井原市議会議員 三 宅 文 雄

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間

平成25年11月12日～11月13日

2. 研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先

- （1）神奈川県小田原市 小田原市役所 観光課、小田原城
- （2）京都府向日市 向日商店街

3. 研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容

- （1）北条家五代にまつわる観光事業について研修
- （2）商店街活性化成功についての研修及び商店街視察

4. 研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名

- （1）小田原市経済部観光課 武井好博様、府川一彦様、三橋礼奈様
小田原城天守閣館長・学芸員 諏訪間 順 様
- （2）向日市激辛商店街 事務長 磯野 勝 様
辛味工房 ギャー 工房主 齊藤 岳人様

5. 活 動 内 容

(1) 北条家五代にまつわる観光事業について

北条早雲という、歴史に名を刻んだ戦国武将の生誕地である井原市。その北条早雲を通じての交流も盛んで、また東海道五十三次の宿場町でもあり、そしてあのように立派な小田原城天守閣のもと、城下町として発展してきた小田原市。この町を尋ね、北条家五代にまつわる観光事業について研修に行ってきました。

小田原市は人口20万余りの都市ですが、都心に近く交通アクセスが実によい所です。

まず最初に感じたこと、それは井原市とは規模が全く違うということです。年間およそ250万人の人がこの地を訪れ、そして小田原城と共に発展してきたという歴史がこの地にはあるということです。ここに来てみて改めて歴史のもっている重みというものを痛感いたしました。

観光課の職員の方が特に強調されていたのは、来られた観光客の皆様、いかにこの地に長くいて頂くようにするかということです。長時間滞在されますと、当然この地域に大きな潤いをもたらして下さいます。その為に、地元のみやげもの店、18店を認定していて、常に観光客のニーズの情報把握に努めているとのこと。

職員で道標をチェックしたり、またレンタサイクルの普及にもつとめており、市内を周回する回遊バスも、終日30分間隔で運行しているとの事です。そのほか店舗の改装についても、30万円を限度に助成しているとのこと。

全てが私たちの町、井原市にあてはまるは思いませんが、ポイントとしてあげるとすれば、まず観光に来られた方々に満足して帰ってもらわないこと、訪れる人たちに観光地の選択肢が数多くあること、そしておもてなしの心を持つこと。それら実行することがリピーターを呼び込む有効な手段となりうるということです。

そしてもうひとつ大事なこと、それは今後の観光開発を検討してゆくうえで、まずある資源を有効に活用すること、決して無理をしないということです。

以上のことを参考にして、これからの観光振興に貢献できればと思います。

(2) 商店街活性化についての研修及び商店街視察

向日市は京都市南東に位置し、南北約4キロ、東西2キロメートルの「西日本で一番小さな市」です。昔から竹の子の産地として有名で、旧長岡京地跡もあり、また向日町競輪場があるところでもあります。

かねてから小さな店舗が数多く林立し、多くの人たちで賑わっていた時期もありましたが、近年、他都市同様、郊外型の大型店進出により、当市でも急激に空き店舗がふえてきました。そこで何とかしなくてはと、若手経営者等が立ち上がり、全国各地の先進地を視察して、たびたび議論し検討をかさねた結果、とにかくマスコミ受けするようなことをしようと、平成21年から「京都激辛商店街」として本格的に取り組みを始めました。発足から4年、その間テレビにも70回位取り上げられて、またヤフーのトップページに載ったこともあるとのこと。珍しさもあってか、来られる方々も毎年3割位のペースで増え続け、大阪京都をはじめ、関西地方からだけでなく、全国にその名が知れ渡ったようで、去年は実に5万人もの観光客を集客したとのこと。

特に印象的だったことは、この活性化事業に商工会は、一切関わっていないということです。即ち若手の経営者が主体的にこの事業に取り組んでいるということでもあります。

磯野商店街事務長さんも言われていたが、これからの時代は、テレビをはじめインターネット等の情報網をうまく活用することが重要だとのこと。おかげで現在では、空き店舗は全て解消し、新たに新店を出店したいと相談にこられる方も数多くおられるとか。本当にうらやましくなりました。井原市でも高齢化が進んでいます。大きな店に車で買い物をいけない年代の人達がふえています。少し時代遅れかもしれませんが、近くで気兼ねなく買い物ができるような、そのような「なじみの店舗」があって欲しいなと思いました。またそれと同時に、その可能性をも追求してゆきたいなと思います。

様式第 2 号（政務活動実施報告書）

2 5 年 1 1 月 2 7 日

井原市議会議長

様

井原市議会議員

大滝文則

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成 2 5 年 1 1 月 1 2 日～1 1 月 1 3 日
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	小田原市役所観光課 向日町市商店街
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	北条五代歴史研修及び小田原城他北条家ゆかりの視察 向日町商店街活性化の取り組みについての研修及び視察
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	小田原市観光課長 竹井好博 " 係長 府川一彦 小田原城天守閣 館長・学芸員 諏訪間 順 京都向日市商店街事務長（市議会議長）磯野 勝
5. 活 動 内 容	①北条五代の歴史研修を行いました。 戦国時代を開き、小田原城を拠点に関東に覇をとなえた北条氏。五代にわたり善政をしき、現代につながる小田原のまちの基礎を形作る、その礎である北条早雲の出生地である井原市とのこれまでの活性化事業や、これからの観光事業の展開や課題について意見交換し、最後に諏訪間館長の説明を受けながら小田原城の視察見学を行いました。 ②向日町市は西日本で面積が一番狭い市。閑古鳥が鳴いていた商店街を「激辛の街」をして週末を中心に観光客の集まる街となった経緯や今後の課題等についての研修を行いました。 他別紙のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後 2 週間以内 に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

研修後の所見

- ① 平成13年10月12日、3市2町（岡山県井原市・静岡県沼津市・神奈川県小田原市・静岡県韮山町（現伊豆の国市）・神奈川県箱根町）の行政及び観光協会をメンバーとして「北条早雲観光推進協議会」が発足し、その後発展的に平成23年7月8日、北条氏にゆかりの市町村（構成団体は関係する市町村及び市町村観光協会又はこれに相当する団体（現在は10市2町））が連携して北条氏の多様な功績や魅力を活用した観光事業を展開し当該市町村の活性化を目的に設立された「北条五代観光推進協議会」が設立されました。

設立はされているものの、はたして目的どおり十分機能しているのか？率直に疑問を感じえないそんな研修となりました。

というのは、圧倒的な観光資源（小田原城等）を保有する市町と乏しい資源で対応せざるをえない市町との温度差はおのずとあり、そのことが市民感覚としても必ず出てくるものであるからです。

また、合併後10年を迎えようとする中、いまだ観光協会は旧市町のままである井原市の現状を考える時、一体感の醸成や、今後において井原市観光資源コンセプトの醸成には多くの課題があると感じる研修となりました。

- ② 平成21年7月9日、西日本で一番小さな市、京都市向日町市に「京都激辛商店街」が発足しました。その設立経緯を研修する中で「まちづくり」のヒントを感じる研修となりました。

事務長の磯野さんの話によると、このプロジェクトの発足時には市や商工会は関わっておらず数人の仲間からのスタートだったとのことでした。補助金とか人的支援もないままのスタートで自由な発想で出来た事が結果的に成功に結び付いたかも知れないと話されていました。（現在は、PR資材やイベントへのバックアップなどが有）

このプロジェクトは統一のテーマを決定した後は、商店街というより、市民に等しく参加募集をかけて賛同者だけによる活性化活動が原点にあるとのことでした。

地域の財産の掘り起し、情報の発信力、集客のためのネーミング、マスコミ受けを狙った発信、ゆるきゃら（からっきー）、karai グランプリ、辛ガールコンテスト等々、また辛さをコンセプトに統一のイベントを切れ目なく打ち出すことによりインパクトを出していく。熱く語られる中に計画された戦略を感じました。またそうした中で新たな課題へもチャレンジしていくという積極的な姿勢を感じました。

- ① の項でも書きましたが井原市において、今足りないもの、その一つテーマが統一であることを続けて感じる研修となりました。

様式第2号（政務活動実施報告書）

25年11月25日

井原市議会議員
宮地俊則様

井原市議会議員 井口 勇

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1、実施期間	平成25年11月12(火)～13日(水)
2、研修会の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	神奈川県小田原市 京都府向日市
3、研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	小田原市―北条五代観光事業 向日市―商店街活性化
4、研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者	小田原市―観光課長 武井好博・観光振興係長 府川一彦 観光振興係 三橋礼奈 学芸員博士 諏訪間 順 向日市―京都激辛商店街事務長（市議会議員）磯野 勝 辛味工房主幹 斉藤岳人
5、活動内容	別添のとおり
1 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。 2 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。	

○北条家五代観光事業

小田原市を中心に井原市を含む北条五代関係10市2町で北条五代観光推進協議会を平成23年度に設立し、北条五代の認知度を高めるための事業、また平成14年度よりNHK大河ドラマ化の要望活動も活発に行われている。井原市においても荏原地区・観光協会が一体となって北条五代の認知度を高める必要がある。

(参考) 北条早雲黎明を呼んだ男の壮大な一代記「黎明に起つ」著者伊潤がNHKより出版され、10月26日より発売されている。

○向町商店街活性化

商工会青年部が主体となり平成21年7月、西日本で一番小さな市(面積7,67km²、人口54,000人)京都府向日市に「京都激辛商店街」を発足し、定番のカレー、麺等はもちろん、和菓子・スイーツなど常識を覆すメニューや想像を絶する辛さをお客様に堪能していただいている。

辛さのレベルはお店によって様々だが、激辛マニアの方から激辛に苦手な人、初心者レベルまで用意され、多くの方々が訪れ楽しんで味わっておられるとのこと。

現在37店が加盟し年会費1万円、激辛商品の販売は限られるが、便乗効果が大き加盟店のなかには、食料品はもちろんのこと、クリーニング・洋服・酒・ガーデン店も加盟している。行政にたよることなく従来の店舗で新たな投資もなく激辛というだけで多くのマスコミの取材を受け全国に発信し、商店街の活性化に成功されていることは大変参考になった。